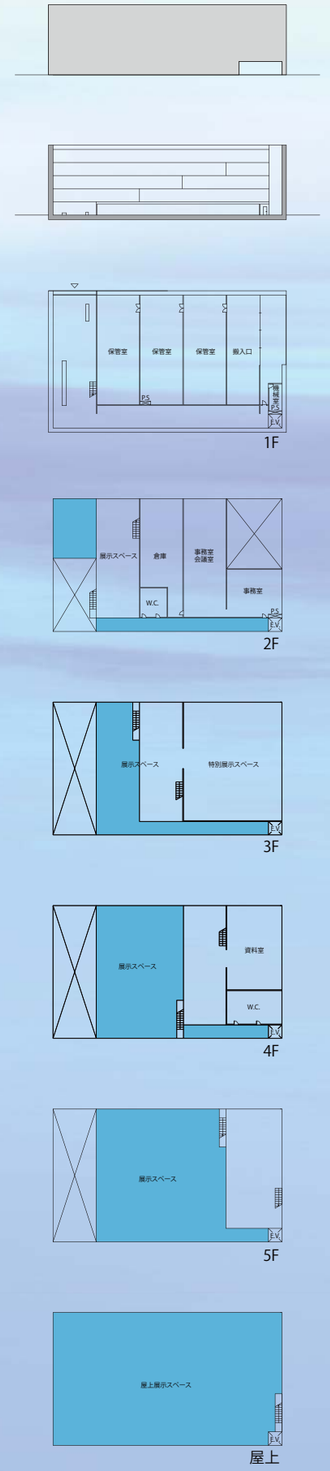
第5回空間デザイン・コンペティション　ガラス質を生かした建築

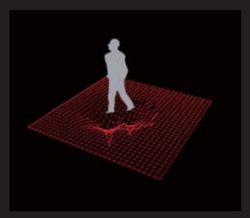
荷重感知式液晶ガラス

人や物などが載ると、重さに応じてガラスが乳白の霞色に変化するガラス。
霞がかかる範囲は外側になるほど透明になり、
人が載っている時間に応じて残像時間が変化するガラス。
そんなガラスを使った美術館である。

何層にも積層された床によって、雲が漂う大空のような空間が出現する。
美術品の展示内容によって人々の軌跡が異なり、空間が動的に変化する。



荷重感知式液晶ガラスは人の重さを感知する



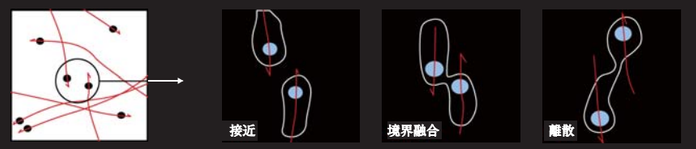
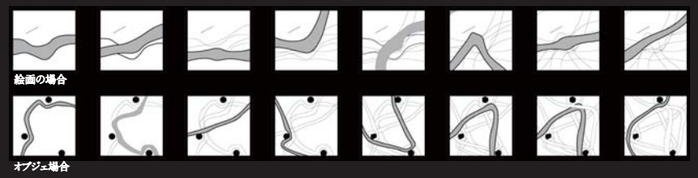
ガラスのひずみに応じて液晶が濁る

体重、速度移動によって残像が残る

人が増えるほど残像は短くなり少ないほど長く残る

何もない空間から、アート特融の場を人が創り出すことで、アートを成立させていく。アートの意味のそのものがこのガラスから発生する。

人が多い時　　人との距離感や空間の感じ方は残像によって新たに知覚される。



人が少ない時　　残像がゆっくり消えて、その跡が帯状に重なって常に新しい空間を創り出していく。